

信濃町の埋蔵文化財

# 平成16年度町内遺跡発掘調査報告書

## —杉久保遺跡ほか—

2005

長野県

信濃町教育委員会

## 例 言

1. 本書は平成16年度に実施した長野県上水内郡信濃町における開発事業に伴う発掘調査、試掘調査の報告書である。
2. 調査は国からの補助金交付を受けて信濃町教育委員会が実施した。
3. 本書の執筆、編集は調査担当者である渡辺哲也がおこなった。編集の補佐を藤田桂子がおこなった。
4. 本調査の遺物、実測図、写真等の資料はすべて信濃町教育委員会に保管されている。  
出土資料の記号番号は次のとおりである。杉久保遺跡（平成15年度試掘調査）[03SU]、（平成16年度第1次調査、第2次調査）[04SU]。
5. 調査体制は次のとおりである。  
調査主体者 信濃町教育委員会  
事務局 教育長 小林豊雄  
生涯学習課長 櫻井博一  
生涯学習係長 伊藤 均  
調査担当者 生涯学習係 渡辺哲也  
発掘参加者  
（杉久保遺跡平成15年度試掘調査） 佐藤美佐江 佐藤道子 菅谷澄子 松岡さとみ 松木圭子 宮川裕子  
（杉久保遺跡平成16年度第1次調査、第2次調査） 小日向千代子 北村フクコ 小林ミチエ 小林八重子  
佐藤孝治 高田昭夫 高遠三治 高橋是清 田村勇 深澤政雄 藤田桂子  
（日向林B遺跡） 佐藤孝治 徳永門 東貢 藤田桂子 山崎啓一  
（東裏遺跡） 佐藤孝治 徳永門 藤田桂子 山崎啓一  
整理参加者  
篠崎和美 菅谷澄子 藤田桂子
6. 調査をおこなうにあたり、事業主の池田勝氏、池田昭博氏（杉久保遺跡）、西澤俊明氏（日向林B遺跡）、中村光雄氏、萩原高司氏（東裏遺跡）には多大なるご協力をいただいた。また、有限会社宮嶋商事、興和工業株式会社には調査を進める上で便宜を図っていただいた。記してお礼を申し上げる次第である。

## 目 次

I 信濃町の環境と遺跡	1
1. 自然的環境	1
2. 歴史的環境	1
II 調査の内容及び成果	2
1. 杉久保遺跡（2004個人住宅地点）	2
2. 東裏遺跡（2004事務所建設地点）	8
3. 日向林B遺跡（2004個人住宅地点）	8
写真図版	9

# I 信濃町の環境と遺跡

## 1. 自然的環境

信濃町は長野県の北端に位置し、新潟県と県境を接している。町域は東西の方向に概ね3つの地形に分けられる。東部は第三紀鮮新世から第四紀前期更新世の堆積岩を主体とする基盤山地が占め、それらの上を斑尾山起源の安山岩溶岩が覆っている。野尻湖はこの基盤山地の中にあり、およそ7万年前にその原形ができたといわれている。西部には第四紀中・後期更新世の飯縄山、黒姫山の火山地形が占めている。この東西の山地に挟まれた中央部に低地帯があり、主に後期更新世から完新世の湖沼・河川堆積物からなる丘陵、段丘、低湿地などになっている。

黒姫山東麓を水源とする赤渋川と野尻湖を水源とする池尻川は関川水系に属し、北方へと流下する。一方長野市戸隠を水源とする鳥居川は千曲川（信濃川）水系に属し、南東方向に流下する。この二つの水系の分水嶺は柏原地区に位置し、その辺りはなだらかな高原状となっている。こうした平坦な地形は内陸部と日本海側をつなぐルートとして古くから利用されてきたものと考えられる。現在人々が暮らす居住域は、標高700m前後の地域で、気候は日本海側の気候に属し、冬期は寒冷で多雪、夏期は比較的冷涼で避暑地として利用されている。

## 2. 歴史的環境

信濃町は前述のような地形の特徴により、日本海側と内陸部をつなぐ交通の要所にあるため、古くから人々の往来がさかんであったことが推測できる。江戸時代には北国街道が整備された。また、関川を境として信濃と越後の国境があり、国境という歴史的、地理的な特徴を有する地域でもある。信濃町には現在173ヶ所の遺跡が知られているが、時代により遺跡数の変遷にその特徴が見出せる。その特徴を列記すれば、1) 旧石器時代の遺跡

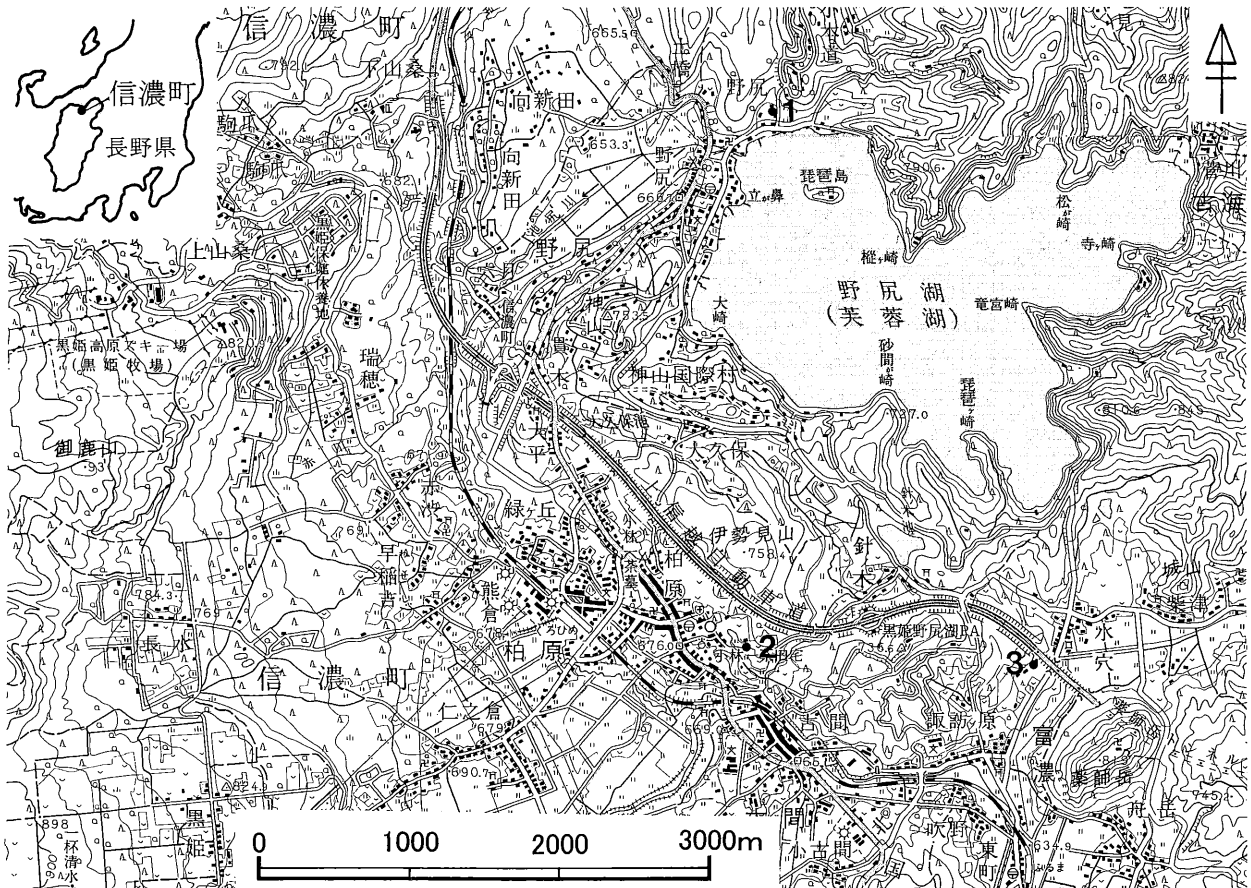


図1 調査地の位置  
(国土地理院平成10年5月1日発行1/50,000「戸隠」平成13年4月1日発行1/50,000「妙高山」地形図を使用)  
1. 杉久保遺跡 2. 東裏遺跡 3. 日向林B遺跡

が集中する。2) 縄文時代では草創期、早期、前期の遺跡は複数存在するが、縄文時代中期以降の遺跡は少なくなる。3) 縄文時代中期以降、弥生時代、古墳時代の遺跡はわずかで、平安時代になると遺跡数が急増する。

## II 調査の内容及び成果

### 1. 杉久保遺跡（2004個人住宅地点）

#### A. 調査に至る経緯と調査の経過

杉久保遺跡は杉久保型ナイフ形石器の標識遺跡である。今回開発が計画されたのは杉久保型ナイフ形石器を含む石器群が調査された湖底周辺ではなく、湖底へ向かって下向する緩斜面に位置する箇所である（図2）。ここに住宅建設が計画され、平成15年11月に埋蔵文化財の保護について照会があった。住宅は現在居住している住宅の北側の畑地に新築するというので、畑地には遺跡が残されている可能性が高いと判断されたが、畑の北側には駒澤大学の寮があり、周囲の土地の改変が著しいことなどから状況を把握することが必要と考え、試掘調査を実施することにした。平成15年11月27日に試掘調査を実施した結果、縄文土器など37点が出土したことから、住宅建設によって遺跡の破壊が予想される範囲について本調査が必要と判断した。調査には2週間程度の日数を要すると考えられたため、積雪が予想されるこの時期に本調査に着手することは危険であると判断し、平成16年春の雪解けを待って本調査を実施したい旨を事業主にご理解いただき、平成16年4月に本調査を実施することにした。本調査は4月14日から16日に基礎工事をおこなう部分についてのみ実施した。しかしその後、建設地全体の地盤改良を実施するという設計変更がなされ、住宅建設予定地全体が調査範囲となったために、5月18日から27日まで再度調査を実施した。

#### B. 調査の方法

平成15年11月27日に建物の建設予定地内に1.5m×80cmのトレンチを6箇所設置して、手掘りにより試掘調査を実施した（図3）。遺物が37点出土したので、出土位置の記録をとった後、埋め戻しをおこなった。

本調査は平成16年4月14日から実施した（第1次調査）。基礎工事で掘削する予定の住宅の外周のみを手掘りにより発掘をした。ただし、南側はすでに整地され削平されていたために調査対象外としたため、調査範囲はコの字状となった。その後、設計変更により全面発掘をすることになったため、5月18日から再度調査を実施し（第2次調査）、遺物が出土する地点を中心に拡張しながら掘り広げ、遺物がほぼ出尽くす深さまで発掘をおこなった。

#### C. 調査の成果

##### a. 層序

調査地は南向きの緩斜面で、風成の黒色の火山灰土（柏原黒色火山灰層）が厚く堆積する地域である。図4に示したように厚さ80cmを超える箇所もあり、周辺の地域と比較しても2倍以上の厚さがある。Ⅱ層、Ⅲ層は赤黒

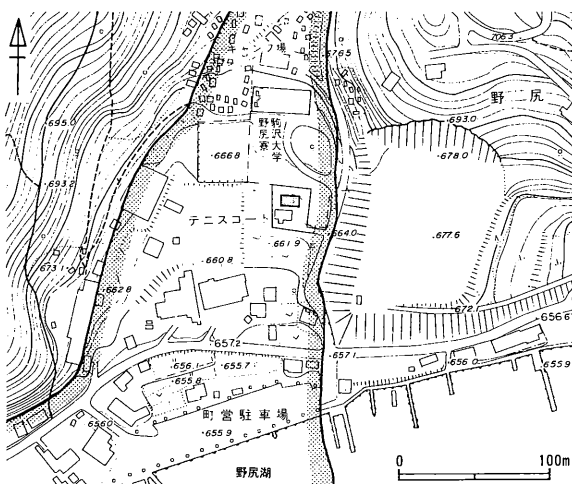


図2 杉久保遺跡の範囲と調査地の位置

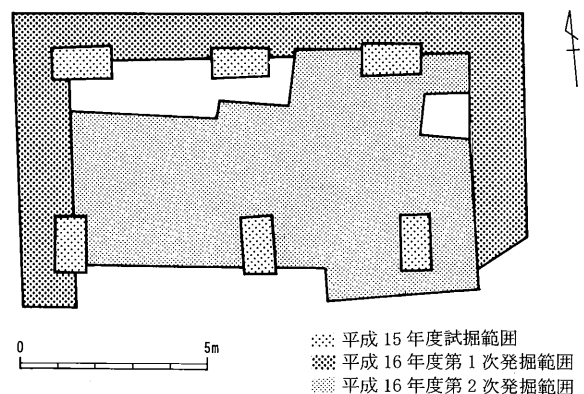


図3 杉久保遺跡の調査範囲

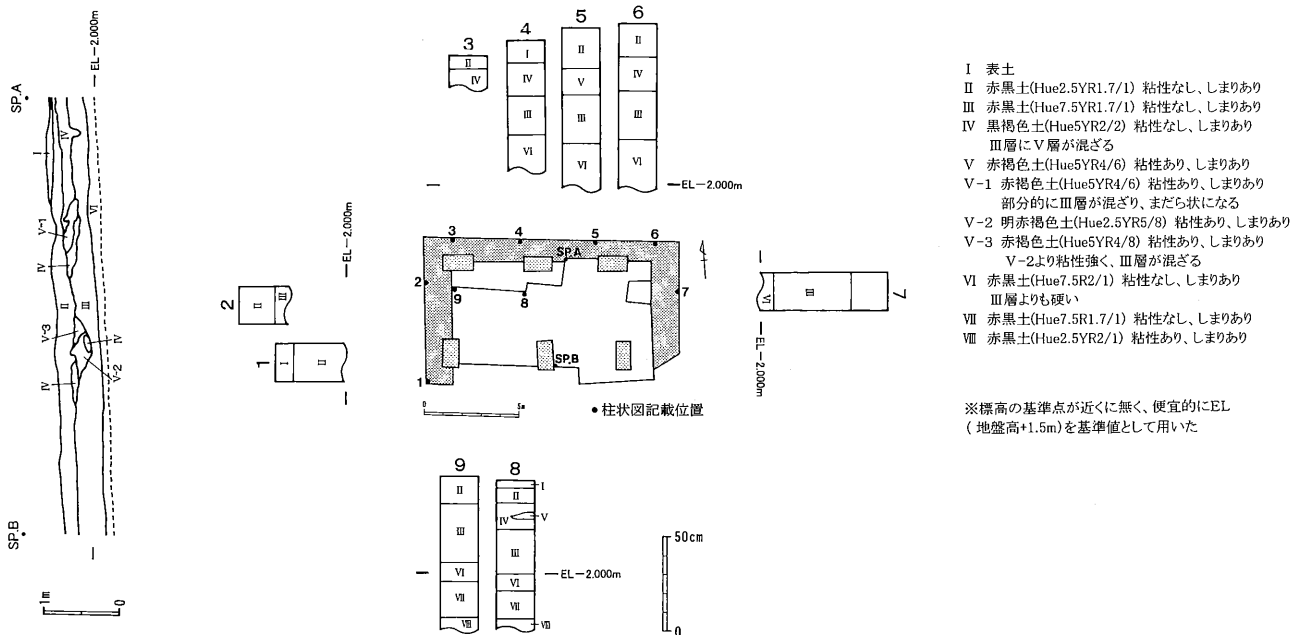


図4 杉久保遺跡調査地の土層

土で縄文時代晩期以降の遺物を包含する。V層は赤褐色の焼土で、色の違いでV-1から3に分けた。焼土は調査地内に数箇所分布していたが、その性格や時期は不明である。近代の炭焼き等による攪乱の可能性もある。IV層はIII層にV層が混入した地層である。VIからVIII層は赤黒土で、VII層を中心に縄文時代早期の土器を包含する。

#### b. 遺構と遺物の分布

前に述べたように焼土の分布を確認したが遺構としての性格を把握することはできなかった。遺物の分布は図5に示した。縄文時代早期の押型文土器は概ね調査区の西半分に分布している。調査区の中央付近に弥生時代後期から古墳時代前期の土器の集中が見られ、接合する割合も高くなっている。調査区の東側は弥生時代後期から古墳時代前期の土器が散漫に分布していて、南東のコーナー付近に縄文時代晩期の土器の分布が見られた。このように時期による遺物の分布の違いは見出せたが、明確な遺構が検出できなかったことから、それぞれの時期について生活面をとらえることはできなかった。

#### c. 遺物

遺物の出土点数は試掘調査で37点、本調査で506点、合計543点であった。縄文時代早期、縄文時代晩期、弥生時代後期から古墳時代前期の土器が出土した。図6の1から26は縄文時代早期の土器である。押型文土器は山形、楕円、平行、柵状、格子目の文様があり、その多くが帯状施文である。図7の27から33は縄文時代晩期の土器と思われる。器面に無節の縄文が充填されている。図8の34から47は弥生土器である。器面に櫛描波状文のある甕の破片のみが出土した。弥生時代後期の所産と思われる。図9の48から50は土師器の甕で、古墳時代前期の所産と思われる。図10の51、52は土錘で、時期は不明である。図11は黒曜石製の石核で、自然面を残し、自然面を打面として幅広の剥片を剥離している。縄文時代の所産の可能性が高いと思われる。

#### D. まとめ

個人住宅建設に先立ち、住宅建設予定地の内52.8㎡を調査した。遺物は543点出土し、縄文時代早期、縄文時代晩期、弥生時代後期から古墳時代前期の大きく分けて3つの時期の遺物が出土した。縄文時代早期の押型文土器はその多くが帯状施文であり、押型文土器の古い段階に位置づけられよう。町内では近年押型文土器を出土する遺跡の調査が増加しているが、今回はそこにさらに1遺跡を加えることとなった。

縄文晩期や弥生時代後期から古墳時代前期の時期の遺跡は町内では少なく、調査例もわずかである。国道18号

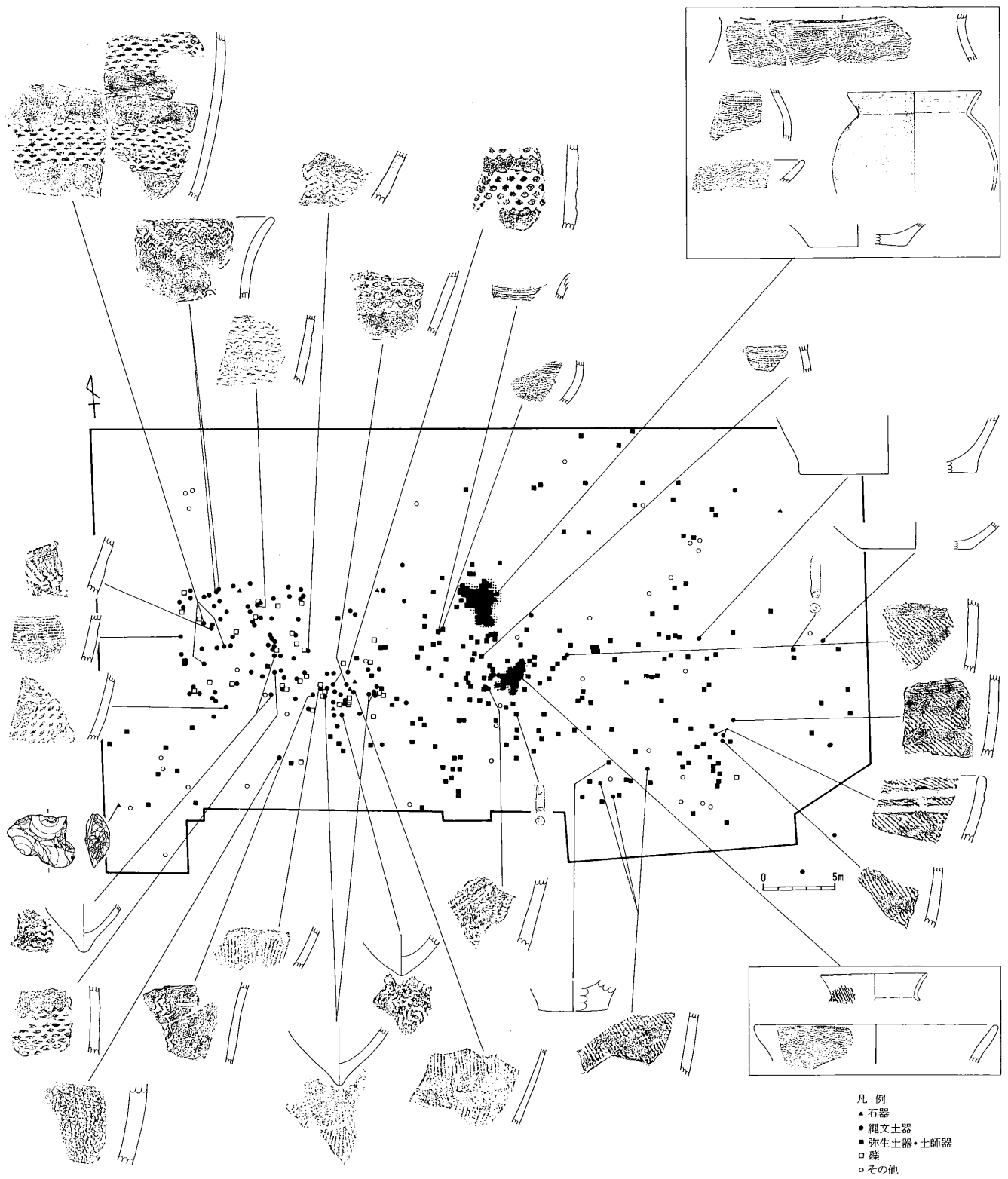


図5 杉久保遺跡の遺物の分布

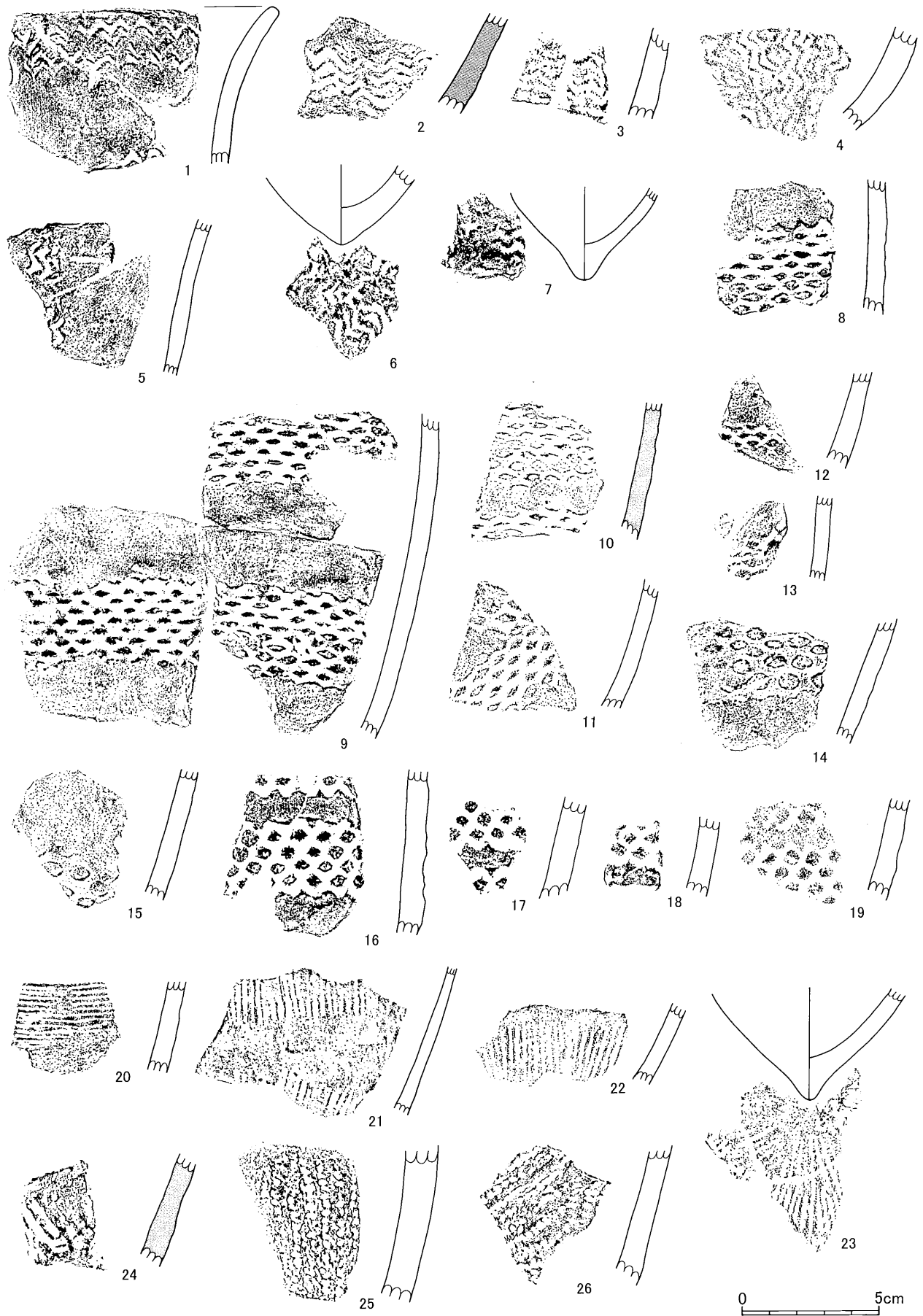


図6 杉久保遺跡の主な出土遺物（縄文時代早期）

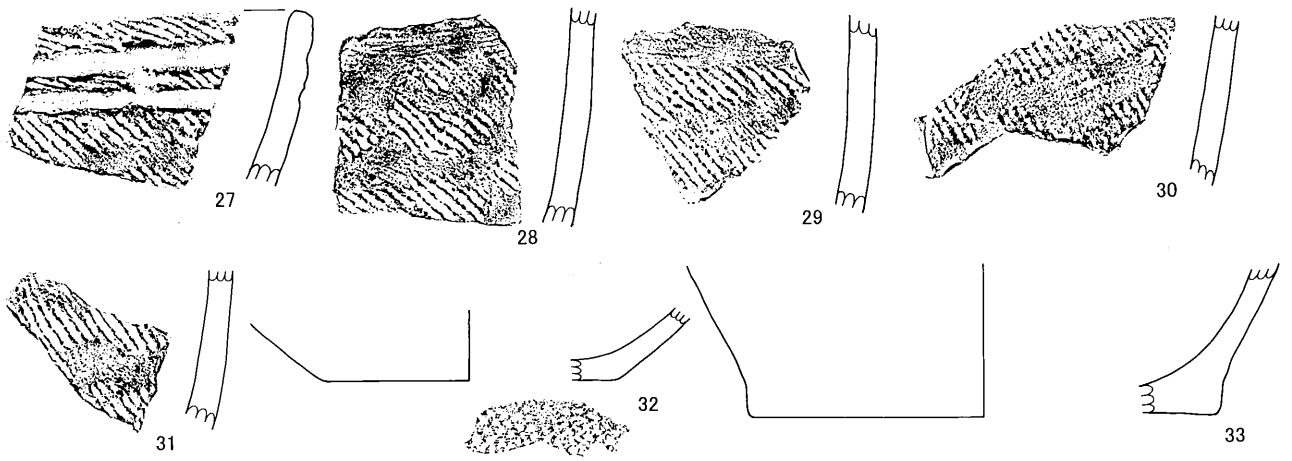


図7 杉久保遺跡の主な出土遺物（縄文時代晩期）

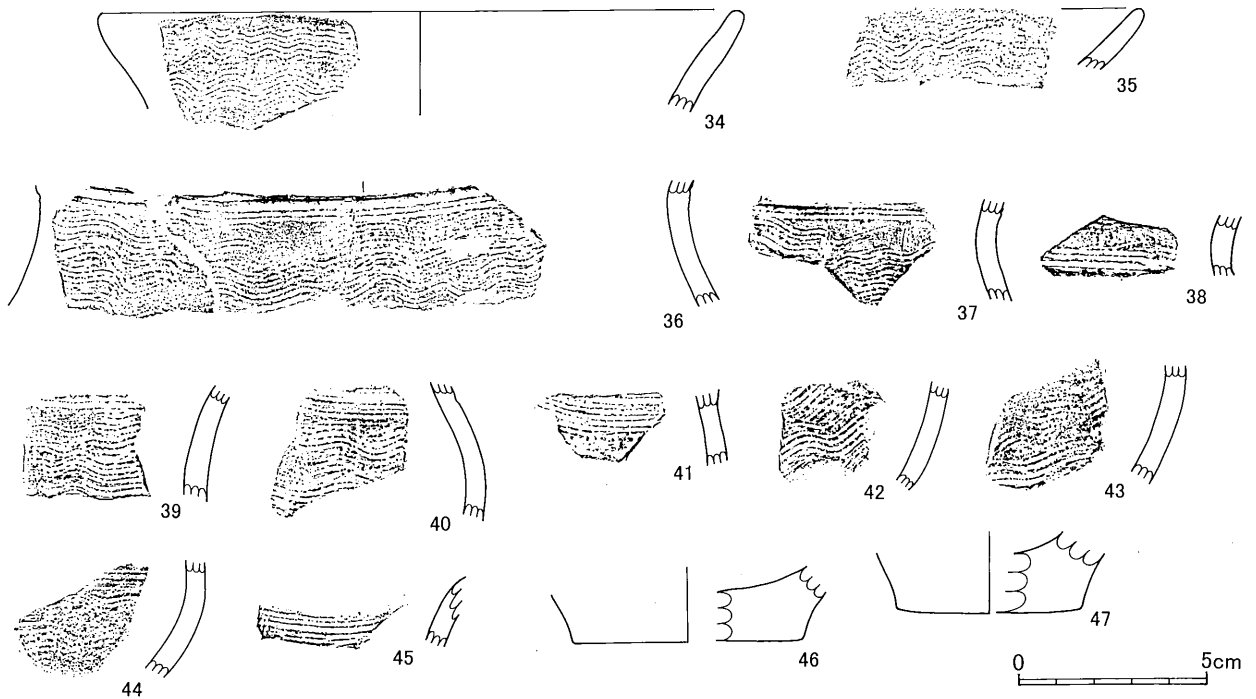


図8 杉久保遺跡の主な出土遺物（弥生時代後期）

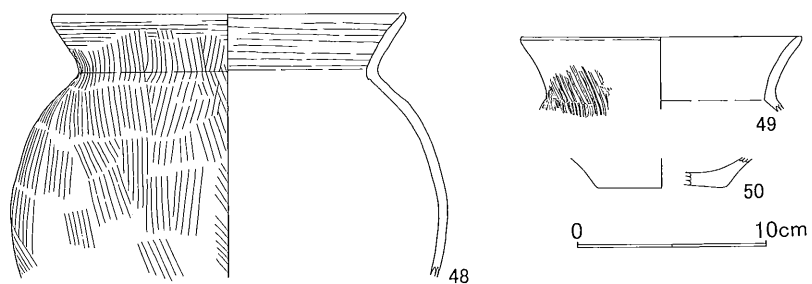


図9 杉久保遺跡の主な出土遺物（古墳時代前期）



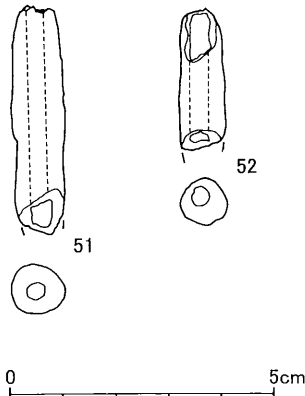


図10 杉久保遺跡出土の土錘

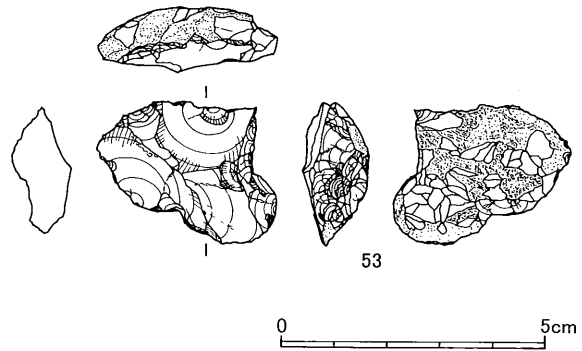


図11 杉久保遺跡出土の石器

表1 杉久保遺跡の主な出土遺物一覧

図No	遺物 No	層位	胎土	繊維痕	色調		文様			備考
					内面	外面	山形文	横位	带状	
1	371,468	Ⅶ	石英		褐色	暗褐色	山形文	横位	带状	
2	426	Ⅶ	石英、角閃石、白岩片	○	橙色	暗褐色	山形文	横位	带状	
3	377	Ⅶ	石英、角閃石、白岩片		褐色	褐色	山形文			
4	488	Ⅶ	石英、角閃石、白岩片		にぶい黄褐色	褐色	山形文	縦位		底部付近
5	463	Ⅶ	石英、角閃石、白岩片		褐色	褐色	山形文	縦位	带状	
6	435	Ⅵ	石英、角閃石、白岩片		にぶい黄褐色	にぶい褐色	山形文	縦位	带状	底部
7	454,478	Ⅶ	角閃石、白岩片		褐色	灰褐色	山形文	横位	带状	底部
8	455	Ⅶ	石英、角閃石、白岩片		黒褐色	褐色	楕円文	横位	带状	
9	379,388,398	Ⅶ	角閃石、白岩片		灰褐色	にぶい黄褐色	楕円文	横位	带状	
10	403	Ⅶ	石英、角閃石、白岩片	○	にぶい褐色	にぶい褐色	楕円文	横位	带状	
11	394	Ⅶ	石英、角閃石、白岩片		褐色	暗褐色	楕円文	横位	带状	
12	476	Ⅶ	石英、角閃石、白岩片		赤褐色	褐色	楕円文	横位	带状	
13	451	Ⅶ	石英、角閃石、白岩片		褐色	褐色	楕円文	横位	带状	
14	487,492	Ⅶ	石英、角閃石、白岩片		褐色	褐色	楕円文	横位	带状	
15	481	Ⅶ	石英、角閃石、白岩片		褐色	にぶい褐色	楕円文	横位	带状	
16	493	Ⅶ	石英、角閃石		にぶい黄褐色	灰黄褐色	楕円文	横位	带状	
17	473	Ⅶ	石英		にぶい黄褐色	灰黄褐色	楕円文	横位	带状	
18	438	Ⅶ	石英		にぶい黄褐色	灰黄褐色	楕円文	横位	带状	
19	482	Ⅶ	石英		にぶい黄褐色	灰黄褐色	楕円文	横位	带状	
20	381	Ⅶ	石英、角閃石、白岩片		にぶい褐色	にぶい褐色	平行文	横位	带状	
21	491	Ⅶ	石英、角閃石		明赤褐色	黒褐色	柵状文	横位	带状	
22	462	Ⅶ	石英、角閃石		褐色	黒褐色	柵状文	横位	带状	
23	486,502,503	Ⅶ	角閃石		褐色	黒褐色	柵状文			
24	378	Ⅵ	角閃石	○	褐色	褐色	格子目文			
25	235	Ⅲ	石英、角閃石、白岩片、赤岩片		にぶい黄褐色	黄灰色	縄文単節RL			
26	339	Ⅲ	石英、角閃石		にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	縄文単節LR			
27	143,172	Ⅲ	石英、角閃石		にぶい黄褐色	灰黄褐色	縄文無節 沈線			内面ナデ
28	142	Ⅲ	石英、角閃石		褐色	にぶい黄褐色	縄文無節			No29と同一固体
29	85	Ⅳ	石英、角閃石		褐色	にぶい黄褐色	縄文無節			No28と同一固体
30	113,115,120	Ⅰ	石英、角閃石		にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	縄文無節			内面ミガキ
31	173	Ⅱ	石英		にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	縄文無節			内面ミガキ
32	4	Ⅱ	石英		褐色	暗灰黄色	底部に網代痕			底部
33	39	Ⅰ	石英、角閃石		褐色	にぶい黄褐色				底部
34	92	Ⅲ	石英		にぶい褐色	暗灰黄色	櫛描波状文			口縁部
35	336	Ⅰ	石英、白岩片		にぶい褐色	にぶい黄褐色	櫛描波状文			口縁部
36	203,278,335	Ⅲ	石英、雲母、白岩片		にぶい黄褐色	褐色	櫛描波状文			
37	198,199	Ⅲ	石英、雲母、白岩片		にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	櫛描波状文			
38	176	Ⅰ	石英、白岩片		にぶい褐色	灰黄褐色	櫛描波状文			
39	(表土中)	Ⅰ	石英、白岩片		にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	櫛描波状文			
40	180	Ⅰ	石英、角閃石、雲母、白岩片		にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	櫛描波状文			
41	289	Ⅳ	石英、雲母、白岩片		灰黄褐色	灰黄褐色	櫛描波状文			
42	197	Ⅲ	石英、角閃石、白岩片		にぶい褐色	灰黄褐色	櫛描波状文			
43	205	Ⅲ	石英、角閃石、雲母、白岩片		褐色	にぶい黄褐色	櫛描波状文			
44	192	Ⅲ	石英、白岩片		褐色	にぶい褐色	櫛描波状文			
45	243	Ⅲ	石英、白岩片		褐色	にぶい褐色	櫛描波状文			
46	247,298	Ⅲ	石英、白岩片		褐色	にぶい黄褐色				底部
47	109	Ⅰ	白岩片		赤褐色	灰黄褐色				底部
48	303,318,319,320	Ⅰ	石英、白岩片		明褐色	にぶい黄褐色	外面タテハケ、内面ヨコハケ			
49	94,152	Ⅲ	石英、白岩片		褐色	にぶい黄褐色	外面タテハケ、内面ナデ			
50	181	Ⅰ	石英、白岩片		黒褐色	褐色				底部
51	1	Ⅰ								土錘
52	65	Ⅰ								土錘
53	9	Ⅰ								石核(黒曜石製)

(野尻バイパス) 建設に先立つ川久保遺跡で同時期の遺物が確認されていることから(長野県埋蔵文化財センター 2004)、この遺跡との関連等を今後考えていく必要がある。

## 2. 東裏遺跡(2004事務所建設地点)

東裏遺跡内で政党の事務所建設が計画され(図12)、遺跡の保護協議がおこなわれた。この周辺では調査例がなく遺跡の状況が不明であったことから、試掘調査を補助事業で実施し、遺跡が確認された場合はその後の調査について再度協議するという方針を立てた。試掘調査は建設地の基礎工事予定地に、1.5m×80cmのトレンチを3箇所設置し、基礎工事で掘削を予定している深さ50cmまで手掘りで調査を実施した。調査の結果、広範囲に埋土がされていることが分かり(図13)、遺構、遺物も検出されなかったことから、本調査は必要ないと判断した。

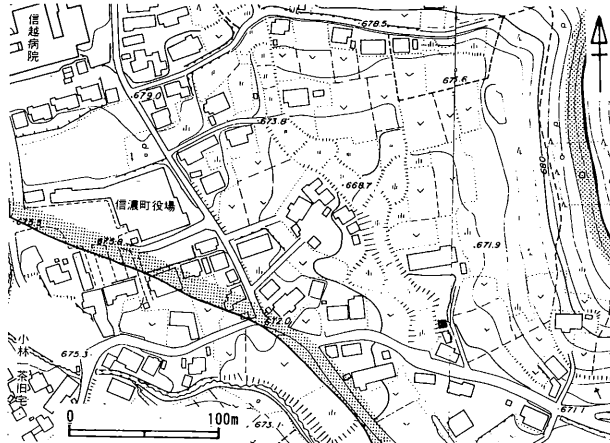


図12 東裏遺跡の範囲と調査地の位置

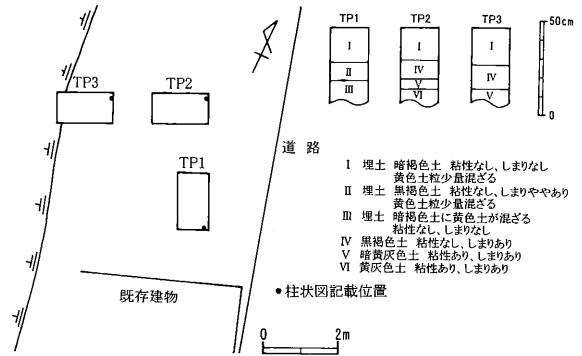


図13 東裏遺跡のトレンチの位置と土層

## 3. 日向林B遺跡(2004個人住宅地点)

日向林B遺跡内で個人住宅の建設が計画され(図14)、遺跡の保護協議がおこなわれた。建設予定地は南東側へ下る傾斜地が平坦に整地されていたため遺跡が残存するか不明であり、そのため試掘調査を実施して状況を把握することにした。試掘調査は基礎工事予定地に1.5×1mのトレンチを4箇所設置し、基礎工事で掘削を予定している深さ50cm前後まで手掘りで調査を実施した。調査の結果、土地の削平と客土によって広範囲にわたり改変を受けていることが分かり、また、遺構、遺物も検出されなかったことから、遺跡はほとんどがすでに残されていないと考えられたため、本調査は必要ないと判断した。

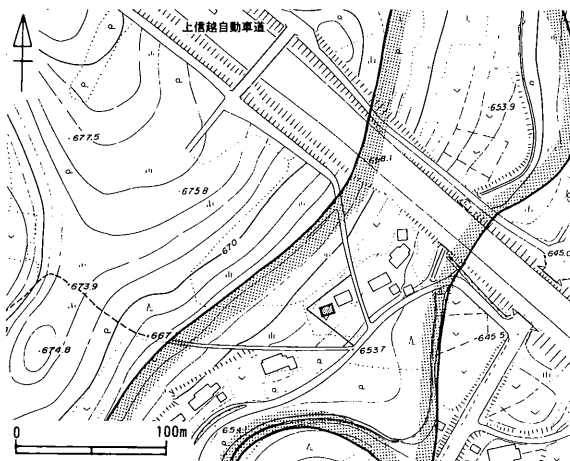


図14 日向林B遺跡の範囲と調査地の位置

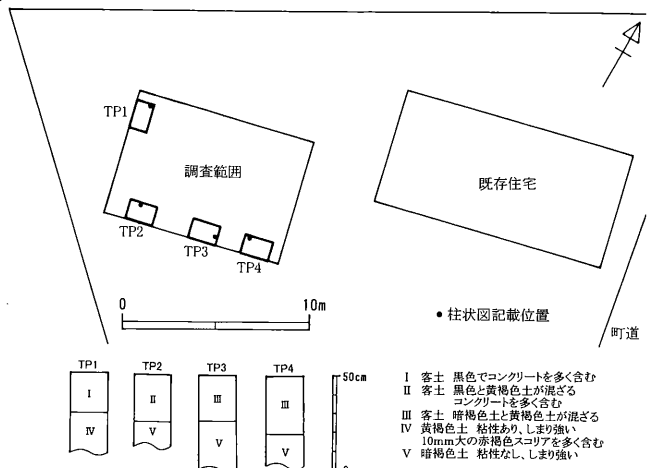
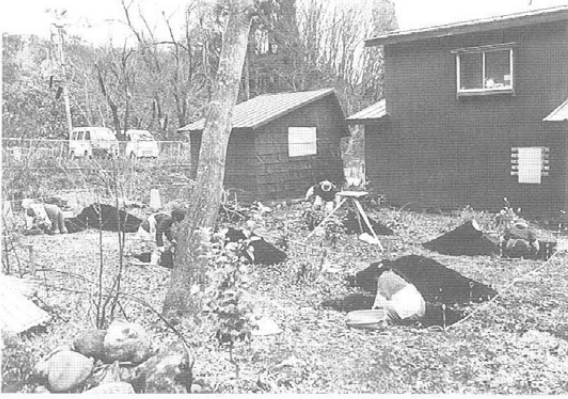


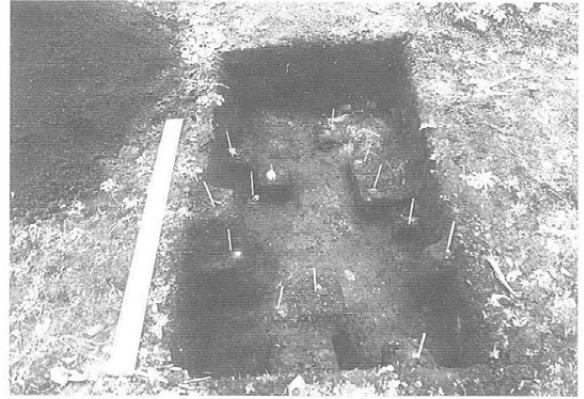
図15 日向林B遺跡のトレンチの位置と土層

## 文献

長野県埋蔵文化財センター 2004 一般国道18号(野尻バイパス)埋蔵文化財発掘調査報告書4-信濃町内その4-川久保遺跡. 80p.



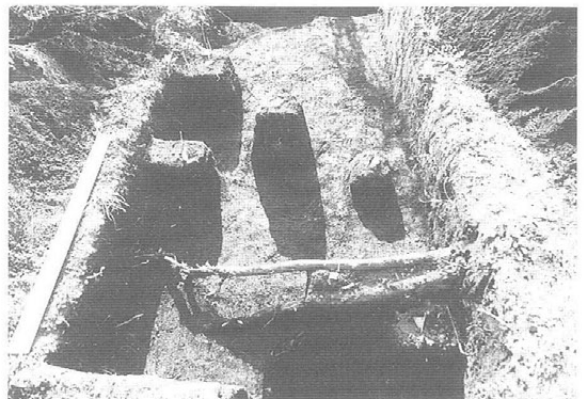
1.03杉久保遺跡の試掘調査風景



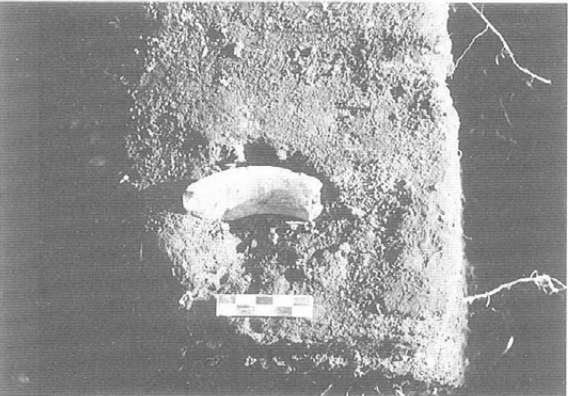
2.03杉久保遺跡の遺物分布状況



3.04杉久保遺跡第1次調査の調査風景



4.04杉久保遺跡第1次調査の遺物分布状況



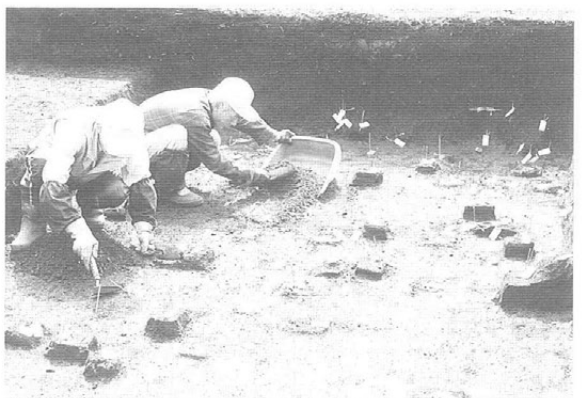
5.04杉久保遺跡第1次調査の遺物出土状況



6.04杉久保遺跡第2次調査の調査風景①



7.04杉久保遺跡第2次調査の調査風景②

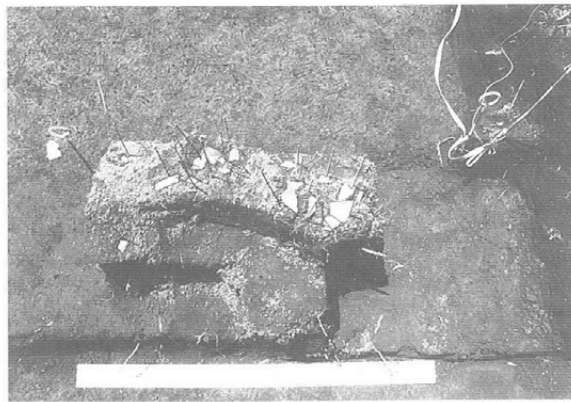


8.04杉久保遺跡第2次調査の調査風景③

## 写真図版 2



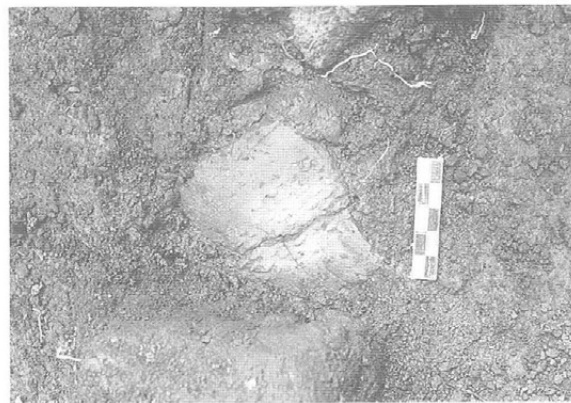
1.04杉久保遺跡第2次調査の遺物分布状況①



2.04杉久保遺跡第2次調査の遺物分布状況②



3.04杉久保遺跡第2次調査の遺物分布状況③



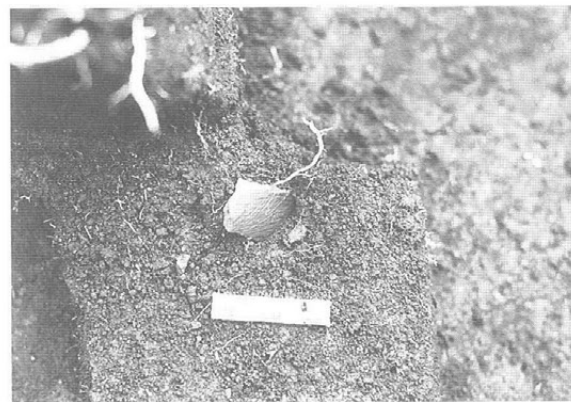
4.04杉久保遺跡第2次調査の遺物出土状況①



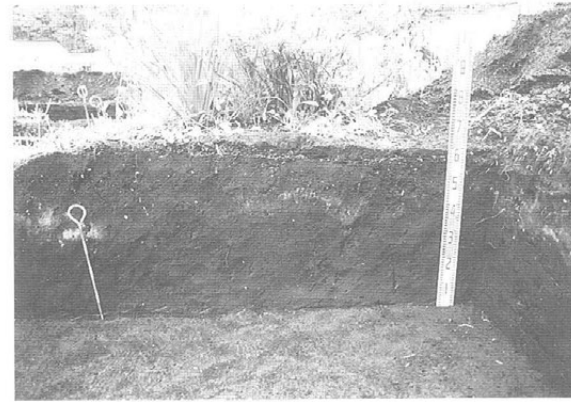
5.04杉久保遺跡第2次調査の遺物出土状況②



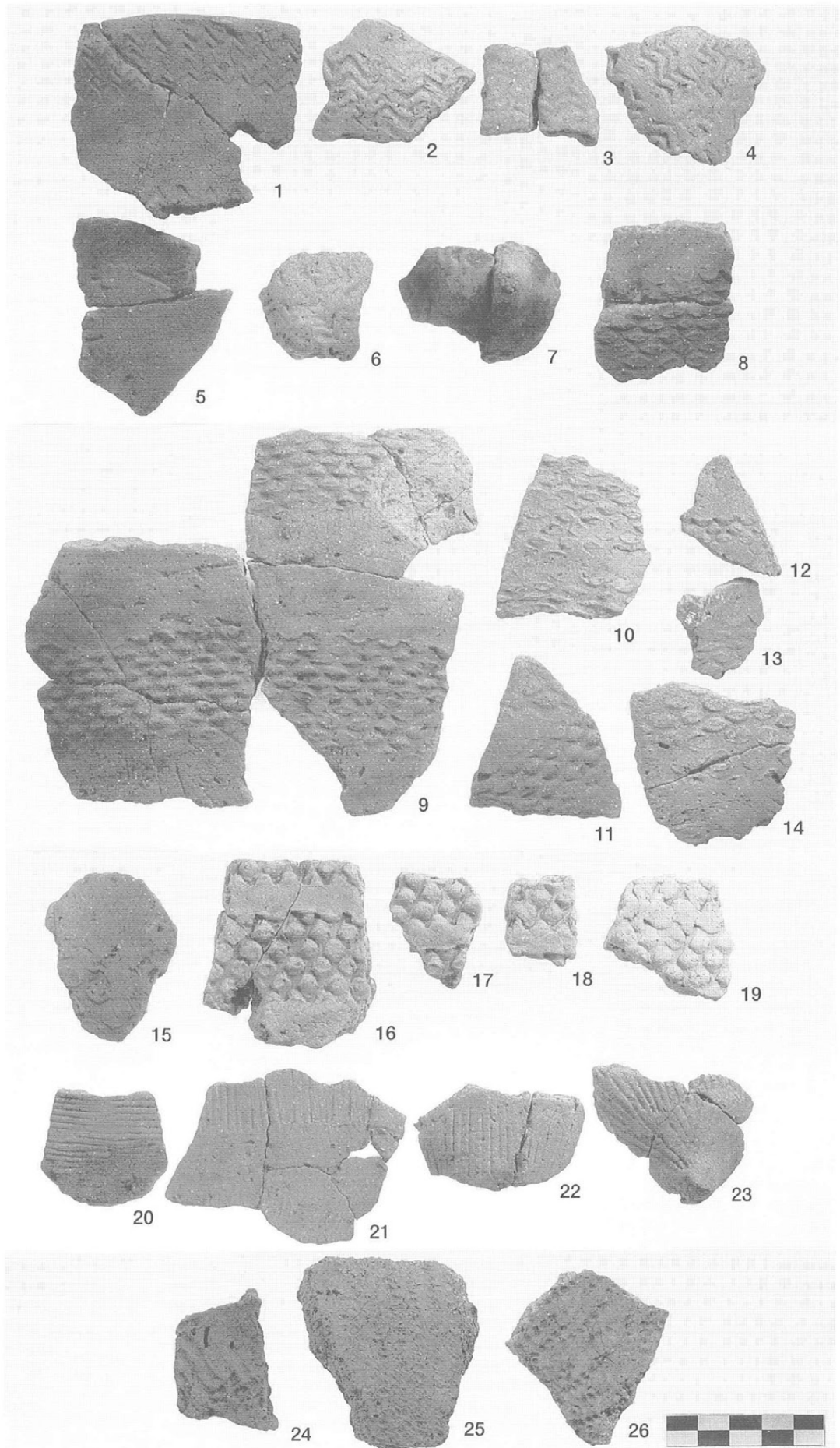
6.04杉久保遺跡第2次調査の遺物出土状況③



7.04杉久保遺跡第2次調査の遺物出土状況④

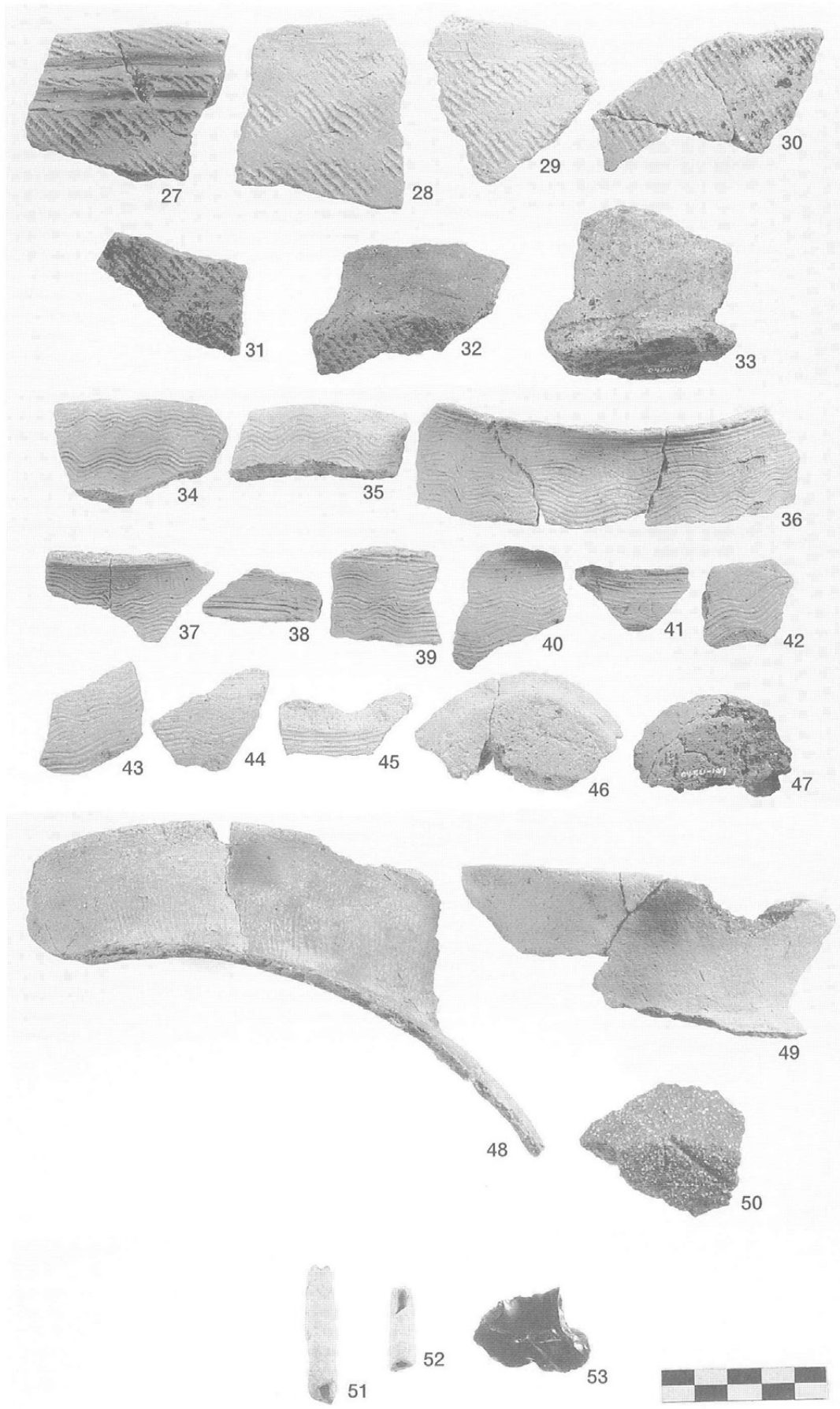


8.04杉久保遺跡第2次調査の層序



杉久保遺跡  
縄文時代早期  
の土器

写真図版 4



杉久保遺跡  
縄文時代晩期  
の土器

杉久保遺跡  
弥生時代後期  
の土器

杉久保遺跡  
古墳時代前期  
の土器

杉久保遺跡  
土錘、石核

## 報 告 書 抄 録

書 名	平成16年度 町内遺跡発掘調査報告書							
副 書 名	杉久保遺跡ほか							
シリーズ名	信濃町の埋蔵文化財							
シリーズ番号								
編 著 者 名	渡辺哲也							
編 集 機 関	信濃町教育委員会							
所 在 地	〒389-1305 長野県上水内郡信濃町柏原428-2 TEL：026-255-5923							
発 行 年 月 日	2005年 3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード		北 緯	東 経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
すぎくほ 杉久保	ながの けんかみ みのち ぐん しなの まちおおあざ 長野県上水内郡信濃町大字 のじり 野尻29-4	205834	29	36度 50分 16秒	138度 12分 42秒	20031127 20040414 ～ 20040416 20040518 ～ 20040527	52.8	個人住宅 建設
ひがしうら 東 裏	ながの けんかみ みのち ぐん しなの まちおおあざ 長野県上水内郡信濃町大字 かしわばら 柏原482-23	205834	70	36度 48分 20秒	138度 12分 35秒	20041026	3.6 (工事面積14)	事務所建 設
ひなたばやしびー 日向林 B	ながの けんかみ みのち ぐん しなの まちおおあざ 長野県上水内郡信濃町大字 とみのう 富濃2253-16	205834	105	36度 48分 16秒	138度 13分 52秒	20041019	6 (工事面積54)	個人住宅 建設
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特 記 事 項		
杉久保	散布地	縄文時代 弥生時代		石器・縄文土器 弥生土器など 543点				
東裏	散布地			出土品なし				
日向林B	散布地			出土品なし				

### 平成16年度町内遺跡発掘調査報告書

—杉久保遺跡ほか—

発 行 平成17年(2005) 3月31日  
 発行者 信濃町教育委員会  
           〒389-1305  
           長野県上水内郡信濃町大字柏原428-2  
           TEL 026-255-5923  
 印 刷 信毎書籍印刷株式会社  
           〒381-0037  
           長野県長野市西和田470  
           TEL 026-243-2105

2 0 0 5

Shinano-machi Board of Education,  
Kamiminochi-gun, Nagano, 389-1305 Japan.